

おはようございます。学年のメにあたり、今日は一つだけお話しします。

先日発行された「大宮西高新聞」に「あの頃を振り返ると・・・」というページがあって、光栄にも18歳の時の思い出を、当時の写真とともに載せてもらいました。

新聞部のリクエストで、その写真を探すために古いアルバムを眺めていると、35年前のことなのに、本当についこの間のような感覚で脳裏に蘇ってくるから不思議なものです。しかも、歳を取ると誰もが若かった頃のことを懐かしく甘酸っぱく思い出すのでしょうか。しばらくノスタルジーに浸ってしまいました。

ところで、その頃よりも3年ほど経って大学生だった時に、薬師丸ひろ子主演の『メイン・テーマ』という日本映画がありました。

薬師丸ひろ子と言えば、僕らの世代にとっては『野生の証明』や『セーラー服と機関銃』ですが、皆さんにとっては3年前のNHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』に出ていた音痴な大女優「鈴鹿ひろ美」でしょうか。

でも、今日の話のタネは映画ではなく、その原作となった小説です。正確に言うと、文庫化された小説『メイン・テーマ1』のあとがきです。そこには作者である片岡義男の言葉で、こう綴られていました。

「1日の長さというものは、特別に変わった考え方をしないかぎり、誰にとってもおなじだ。時計できざめば24時間である1日は、誰にとっても等しい時間的長さを持っている。しかし、この誰にとってもおなじ長さの1日をどんなふうにするかは人によって千差万別であり、どう使うかによってその1日が持ちうる内容もまた、まるっきりちがってくる。1日は1年であり、1年は10年であり、10年はやがて一生なのだ。」

自分の過去を振り返ってみると、「ああ、あの時が、あの選択が、今の自分に続くターニングポイント、分岐点だったのだな」と思うことがあります。見方によっては、人生は常にその分岐点の連続なのかも知れません。

1年間を振り返ってみると、皆さんそれぞれに色々なことがあったと思います。もちろん学校のことだけではなく、家庭でのこと、友人関係、人それぞれ、様々だったろうと思います。

1年間でさえそうなのですから、自分の人生をどう充実させていくかという命題は、簡単に解き明かすこともできないし、思うとおりに進めていくことも簡単ではありません。人生をとっくに折り返している私にとってもそうなのですから、皆さんにとって「人生をどう充実させていくか」なんて、それこそ永遠の「メイン・テーマ」かも知れません。

けれども、「人生を」ではなく、「これからの一年をどう生きていくか」ということならば、少し具体的に考えてみて、実現していくことができるかも知れません。

ましてや、「今日という一日をどういう一日にしていくか」をコントロールすることならば、できるのではないのでしょうか。

今日から、今すぐに取り組むのは難しいかも知れないし、学期中や学年の途中では、ゆっくり落ち着いて考えたり、取り組んだりできなかったかも知れません。

そこで、皆さんが色々と考えたり試したりするために、2週間差し上げましょう。本をたくさん読んでみたり、旅に出てみたり、普段できないことを試してみてください。

4月8日、顔つきの変わった皆さんと再会するのが楽しみです。

さあ、今度はどんな一年にしていこうか。